

# 喜多見古墳群第六天塚古墳(世田谷区)

正面が第六天塚古墳/5世紀末～8世紀初頭築造の円墳/南側から見たところ



そこで右手を見たところ/住宅が迫っている



同じく左手を見たところ/道路も境丘に沿ってカーブしている



これは北西側から見たところ/説明坂が立っている



こちら側も民家が迫っている



5世紀末～6世紀初頭築造の円墳/周囲に周溝が廻り、その内側にテラスを有していたという/埋葬施設は、礫槨ないし礫床らしい

## 世田谷区指定史跡(古墳)

### 第六天塚古墳

所在地 世田谷区喜多見四丁目三番

指 定 昭和五十七年三月二十二日

古墳時代中期(五世紀末～六世紀初頭)の円墳。

昭和五十五年(一九八〇)と昭和五十六年(一九八一)の世田谷区教育委員会による、墳丘及び周溝の調査によつて、古墳の規模と埋葬施設の存在が確認された。

これにより本古墳は、直径二十八・六メートル高さ二・七メートルの墳丘を有し、周囲に上端幅六・八～七・四メートル下端幅五・二～六・七メートル深さ五十五～八十七センチの周溝が廻り、その内側にテラスを有し、これらを含めた古墳の直径は三十二～三十三メートルとなることが判明した。またこの調査の際に、多数の円筒埴輪片が発見された。

埋葬施設は、墳頂下六十～七十センチの位置に、長さ四メートル幅一・一～一・四メートルの範囲で礫の存在が確認されていることから、礫槨ないし礫床であると思われる。

なお同古墳については、『新編武蔵風土記稿』によると、江戸時代後期には第六天が祭られ、松の原木が生えていたとの記載が見られる。

この松の木は大正時代に伐採されたが、その際に中世陶器の壺と鉄刀が発見されており、同墳が中世の塚として再利用されていたことも考えられる。

昭和五十九年三月

世田谷区教育委員会



これは北側から見たところ/何やら付近は造成工事の最中のような



近づいて見たところ/手前に鳥居と祠がある



こちらから更に近づいてみよう



こんな感じの墳丘/墳長にも祠があるようだ



こな塩梅



参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t\\_23\\_rokuten/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t_23_rokuten/)

[http://www.odakyu-voice.jp/town/2014\\_06\\_townfile/](http://www.odakyu-voice.jp/town/2014_06_townfile/)

[http://www.tesshow.jp/setagaya/sight\\_kitami\\_dairokuten.html](http://www.tesshow.jp/setagaya/sight_kitami_dairokuten.html)

<http://kofunoheya.blog.fc2.com/blog-entry-86.html>

[http://www.geocities.jp/nepenthes3\\_walker/kitami.html](http://www.geocities.jp/nepenthes3_walker/kitami.html)

<http://blog.goo.ne.jp/kurihira201/e/84e2fb596d73b5c69af2b3b8ffb1266d>

<http://obito1.web.fc2.com/setagaya.html>

